

専攻名	両専攻共通	必修・選択	選択	単位	2	学期	2Q
科目群	事業アーキテクチャ科目群	科目名	リーダーシップ特別講義			教員名	嶋津 恵子
		(英文表記)	Leadership				

概要	毎回の授業は、講義と実習（拡張版ケーススタディ）の構成を取る。 近年特に高度成長期以降、日本の産業界では協調性ととともにリーダーシップの重要性が説かれ、特にその基本要素として積極性（アグレッシブ）がもてはやされてきた。一方、欧米では、15 年ほど前から、アサーティブの重要性が注目され、リーダーシップに重要な要素とされている。これは、決して新しい発見ではなく、第二次世界大戦当時から、特に米国海軍でフォロワーシップ力として教育が徹底されてきている。 この教本は、日本でも 防衛大学校で日本の国防の監部候補生らの教育に利用されている。 本講義では、リーダーシップの基本に立ち返り、フォロワーシップに基づく社会的実用性の高いリーダーシップ力の獲得を目指す。			
目的・狙い	目的 フォロワーシップに基づく社会的実用性の高いリーダーシップ力に必要な知識と基本的な実践力の獲得 狙い 自身が突出することによるリーダーシップではなく、チームを押し上げることによるリーダーシップこそ、現在の日本の産業界復興に貢献することを認識する。 修得できる知識単位 (A3) K-05-14-05 プロジェクト資源マネジメント（レベル4）プロジェクトチームの結成、プロジェクトチームの育成、プロジェクトチームの管理 (A3) K-05-14-08 プロジェクトコミュニケーション(レベル3)コミュニケーションの計画、情報の配布、コミュニケーションの管理 (A3) K-09-22-01 行動科学（レベル4）リーダーシップ、コミュニケーション、テクニカルライティング、プレゼンテーション、ネゴシエーション、モチベーション			
前提知識 (履修条件)	何らかの組織活動に参加し、組織や小集団を牽引した経験があることが望ましい。			
到達目標	上位到達目標			
	強力なフォロワーシップ力を基盤とする実行力のあるリーダーシップ力を発揮できる。			
	最低到達目標			
	リーダーシップ力醸成のために必要不可欠なフォロワーシップ力の獲得に関し理解する。 また、最低限のフォロワーシップ力を獲得し、実行することができる。			
授業の形態	形態		実施	特徴・留意点
	録画・対面混合授業		—	
	対面授業	講義（双方向）	○	
		実習・演習（個人）	—	
		実習・演習（グループ）	○	毎回メンバーの異なる 6 つのチームに分かれ、フォロワーシップとリーダーシップの実習を行う。
	サテライト開講授業		—	
その他		—		
授業外の学習	授業で指示された課題に取り組み、期限までに提出すること。			
授業の内容	本科目は、講義・議論及びグループワークから構成される。授業計画を以下に示す。グループ演習への積極的参加が求められる。			

	回数	内容	サテライト 開講	対面/録画
授業の計画	第 1 回	使用する教科書の紹介、授業の概要と特長の説明、評価方法の解説 リーダーシップの概念：リーダーシップの定義、見解の多様性、アプローチ、リーダーシップの三次元的概念 他	—	対面
	第 2 回	第 1 回目の講義の続き。 その後、翌週以降実施する拡張版ケーススタディーの解説と練習を行う。	—	対面
	第 3 回	リーダーシップの心理学的研究における歴史的背景 人間行動における科学的方法	—	対面
	第 4 回	拡張版ケーススタディー：リーダーシップ空回り	—	対面
	第 5 回	集団の行動と機能：集団の特徴、個人と集団、集団成員の欲求	—	対面
	第 6 回	拡張版ケーススタディー：チーム目標未到達	—	対面
	第 7 回	道義的リーダーシップ 有効なリーダーシップの人格的特徴	—	対面
	第 8 回	拡張版ケーススタディー：大事な情報が上がってこない	—	対面
	第 9 回	リーダーシップのダイナミックな特徴 コミュニケーション力によるリーダーシップ力の発揮	—	対面
	第 10 回	拡張版ケーススタディー：メンバー間の能力差	—	対面
	第 11 回	人間関係：他人に対する関心、同僚との関係、同僚を助けること、競争的協力 他 カウンセリングと面接	—	対面
	第 12 回	拡張版ケーススタディー：リーダーに不信感を抱くとき	—	対面
	第 13 回	規律と士気：規律、積極的規律、消極的規律、士気作り、団結力 組織と管理	—	対面
	第 14 回	拡張版ケーススタディー：プロジェクトマネジメントを成功させるコツ	—	対面
	第 15 回	全講義の振り返り	—	対面
	試験	これまでの講義を振り返り、総括する。第 1 回から第 15 回までの内容の理解に関する筆記試験を行う。	—	対面
成績評価	知識を問う筆記式小テスト全 4 回（50%）、ケーススタディ評価（30%）、最終試験（レポート）（10%）、授業貢献（高品質自由レポート提出、高品質質問 他）（10%） を基準として総合的に評価する。			
教科書・教材	リーダーシップ：アメリカ海軍士官候補生読本、アメリカ海軍協会、生産性出版社			
参考図書	ケースで鍛える 人間力リーダーシップ、保田健治、ダイヤモンド社 Six Thinking Hats: An Essential Approach to Business Management, Edward De Bono			